

北九州憲法ネットニュース

2006年4月7日(土) 第11号

発行 憲法をまもる北九州市民ネットワーク

802-0841 北九州市小倉南区北方4丁目1番15-701号

TEL & fax 922-4014 E-mail⇒mail@kitaq-kenpou.net

URL⇒http://kitaq-kenpou.net/

「わかりやすく よかった」



講演する安部千春弁護士

第2回憲法まると連続講座も好評でした。

北九州憲法ネット主催第2回「憲法まると連続講座」が3月23日にウェルとばた多目的ホールで開かれました。まず、DVD「この憲法は時代遅れか」を上映。次に安部千春弁護士による「国民投票法と憲法改正」の講演が行われました。参加は90名でした。終了時に会場から寄せられたアンケートは29

枚あり、「よい」とする感想が大部分で、好評でした。

(寄せられた感想)

- * 安部先生のお話、とてもわかりやすくよかったです。マスコミをがんじがらめにして、何も知らされないまま投票させようとしているのは、とても怖いです。こんな悪法が出来る前に、皆で勉強しなくては！(女 40代)
- * 裁判の判例をあげてのお話を始めて聞いたような気がします。分かりやすいお話で、時間がたつのが早かったような気がします。またお聞きしたいと思います。(女 40代)
- * DVDが少し長かったけれど、勉強になりました。(女 40代)
- * 国民に中身を知らせずに投票、しかもプライバシー権などを抱き合わせで、一括投票を狙っているということに、大変危惧を感じました。さらに学習を深めたいと思います。(女 50代)



職場・地域の九条の会の活動

折尾の街で憲法9条を広める

憲法9条を守る折尾の会が発足して、1年3ヶ月が経ちました。3月10日現在で、賛同者91

名。署名数2400筆。街頭署名18回を数えます。はじめは月1回だった折尾駅前での街頭署名。



「署名数が足りないのではないのか?」「まだまだ知られていない」など事務局会議の中で意見を出し合い、昨年7月より第2、第4金曜日の2回にすることにしまし

た。その成果か、「この間、署名しましたよ」と言われる方も少しずつ見られるようになりました。また、「9条の会ってどんなことをし

ているのですか」と興味を示す方もおれら、連絡先を聞いて後日、賛同者になってもらったりと、9条の会の運動が着実に折尾の街で広がっているなど実感しています。会報「おりお」も3月で第7号となり、改憲の動きや憲法9条を守る折尾の会の活動状況を直接、賛同者へ届けています。

5月には第2回総会&結成1周年行事を行います。また、2ヶ月に1回、日曜日に折尾サンリブ前で街頭署名をすることにしています。課題は賛同者の拡大と運動への参加です。学集会などを定期的に計画し活動の輪を広げ、ひとまわり大きな運動にしていくことが目標です。
憲法9条を守る折尾の会 事務局 清水真

「わかまつ九条の会」のぼり十本で にぎやかに

「わかまつ九条の会」では、毎月9日に宣伝行動をしています。1月から“わかまつ九条の会”ののぼり10本を立ててにぎやかに宣伝・署名を行っています。署名数は1月は61筆、2月は25筆、3月は43筆でした。現在の到達は1775筆です。賛同者は275名になっています。



小さくても、楽しい九条の会を

若松区小糸町で、家族ぐるみで集える“小さくても、楽しい”「九条の会」をつくる取組が始まっています。町内の方に呼びかけ、近く発足できるよう準備がされています。

備がされています。

街の中平和のうた風を吹かせて～青い空九条の会』

♪もしもこの地上に 響きあうものが 爆音ではなく 歌の調べであったなら 恐怖や憎しみに囚われないで 人は自由の歌を うたうだろう♪

この歌詞は『ねがい』という曲の一節。本当にそうだ。そう信じていたい……その想いが私たちを支える。

北九州青い空合唱団は、昨年4月の総会で『憲法9条

を守るために行動しよう』との提起を受けて、5月に『青い空・九条の会』を結成した。私たちにすぐ出来ること…それは『歌うこと』。『北九州憲法ネット・小倉』の方たちが地道に続けている小倉駅前で街頭宣伝行動に毎月参加することから始まった。

真夏の太陽と熱風の中で街角に立ち、今は寒風にさらされながら元気に歌い続けている。こんな世情。人々は顔を閉ざし、足早に歩きすぎていく。署名を呼びかける人を露骨に避けて通る人もいる。しかし私たちは、“この地上に響きあう歌の調べ”は、人々の心にそっと…そっとだけど、届くこと



を実感している。特に子どもたち——中学生や高校生は敏感に反応してくれる。『戦争はイヤ』『人を殺すのも殺されるのもイヤ』理屈抜きに私たちの心にしっかりと根付いているその想いを『平和のう

た風』として、町中に日本中に、いや世界中に響かせあいたい。(「青い空九条の会」事務局・渡辺 隼子)

八幡・枝光、門司区でも

◇八幡東区・枝光でも町内規模での「九条の会」づくりが動き始めました。

◇門司・旧東郷村「九条の会」準備会では、11

名の呼びかけ人ができ、現在、賛同署名を集めています。

「高校生もビラ配布に協力」

曾根地域九条の会(準備会)では、3月27日夕方、朽網駅前前で宣伝しました。配布したビラは「曾根地域九条の会」への賛同の呼びかけです。マイク宣伝しながらのビラ配布行動です。8人の会員が参

加しました。飛び入りで、高校生が5名、ビラを配らせて欲しいと、自発的にビラ配布に参加してくれ、通行する市民から注目を集めていました。

北九州憲法ネット第3回総会のお知らせ

8月12日(土)午後2時～ 小倉北区 ムーブ2階大ホール

記念講演 品川正治氏 「財界人が見た憲法」(仮題)

北九州憲法ネットは、第3回総会を開きます。(8月12日・土曜日の午後2時から、小倉北区“ムーヴ”の大ホール)多くの皆さんのご参加をお願いします。記念講演には、いま各地での憲法運動で活躍されている品川正治氏をお願いして了解を受けています。

(品川正治・しながわまさじ氏の略歴)

(財)国際開発センター会長。1924年神戸市生まれ。東京大学法学部卒。日本興亜損保(旧日本火災)の社長・会長を経て、相談役。経済同友会副代表幹事・専務理事を経て、現在、終身幹事。

(品川正治氏の2月11日新潟市での講演から)

「もし国民が改憲に対して『ノー』と言った場合、世界史はどう変わるか。いままでの日本の政治のあり方が大きく変わらざるを得ない。内閣総辞職ぐらいの問題では全然ないんです。

日本がそういう形ではっきりと『ノー』と答えた場合、中国と日本との関係も変わる。日中の関係が変わると、アジアが変わることは当然。そうなった場合の日米の関係がどうなるか。国民の出番なんです。国民がそれを『ノー』と言った場合には、これを変えられる。世界2位の経済大国が、はっきりと

日本の進路に関して、アメリカの世界戦略そのものを否定する格好になる。これで世界が変わらないなんてことはあり得ない。だから、21世紀の課題は、日本がその手に握っている。これが21世紀の課題です。ですから、危機感としていまの問題を捉えるのではなく、むしろ、世界史を変える一翼を担うというご決心をおもちになって、この問題を見ていかれると、どれだけ大きな歴史的な事業に参加することになるか、ご自身としても十分納得がいくだろうと思います。」

北九州憲法ネット「代表世話人・事務局合同会議」は 5月23日(火)です。

北九州憲法ネットは、8月12日に第3回総会を開催します。このため、5月23日に「代表世話人・事務局合同会議」を開き、準備に入ります。

カンパありがとうございました。(敬称略)

2006年3月

藤井利秋、佐多道人、森田禮三、野瀬秀洋、中村昌之、定家紀代三、
江口道子、江口佳郎、高智彦、玉井史太郎、北九州第一法律事務所、
酒見辰正、安部博純、渡辺和子、島内弥七、須崎和幸、宮崎彬、佐村保紀、
岡崎健、五群典夫、中島明、平山博久、JMIU 安川パート労働者支部
木村昌稔、藤本千咲子、多加喜悦男、古野和彦

カンパのお願い
北九州憲法ネットの活
動支援カンパをお願いし
ます。
郵送料金などの活動費
用に充てます。同封の振込
用紙をご利用ください。
ご協力よろしくお願
い
します。

+++++

【資料】 国民投票法案を「知っている」人でも 8割近くが法制化に批判的 しかし、多くの人「知らない」！ (NHKの世論調査から)

NHKは、今月10日から3日間、全国の20歳以上の男女を対象に、コンピュータで無作為に発生させた番号を電話をかけるRDDという方法で世論調査を行い、61%にあたる1020人から回答を得ました。NHKの世論調査によると、憲法改正の手続きを定める国民投票法案について、「知っている」が27%、「知らない」が68%でした。また「知っている」と答えた人に国民投票法案の成立時期をどう考えるかを聞いたところ「慎重審議」が60%、「必要ない」が16%で、これをあわせると「知っている」人でも76%が現段階で必要性を感じていないと言

うこととなります。NHKの世論調査の結果は、国民の国民投票法案に対する認知度、関心度が低いことを反映していると考えられますが、その一方で自公民が今国会に国民投票法案を提案・成立させようとしていることとの乖離は非常に大きく、国民の願いでも要望でもないと言えます。国民の知らない間に国の基本法である憲法変えて日本を「戦争できる国」にすることと直接的に結びついている国民投票法案は、平和憲法の基本理念を「破壊」するに等しく、国民主権をもないがしろにするものです。

護憲コラム

チャングムの誓い

韓国ドラマ「宮廷女官チャングムの誓い」は、日本でも新しい韓流ブームとして脚光を浴びている。ロケ地には「チャングム・テーマパーク」もでき、観光地となっているそうである。描かれている時代背景は、16世紀初頭の朝鮮王朝で、日本の太閤秀吉が活躍した時代だ。この朝鮮王朝は、時代は下って、日本の軍部によって滅ぼされる▼朝鮮と日本の付き合いは長く、「古事記」「日本書紀」に朝鮮の新羅との貿易の記述がある。明治維新以降、日本の軍部による朝鮮支配が露骨になり、1875年の「江華島事件」を突破口に、1876年「日朝修好条規(開国強要条約)」を強引に押し付けた。これは、幕末にアメリカが日本を黒船で威圧を加え、嫌がる幕府を無理やり開国させたやり方を真似したと言われている。そして、日清・日露戦争の拡大に合わせて、朝鮮に日本の利権を拡大させていき、1907年には「韓国併合条約」を結び、完全な植民地化してしまった。この間、あの有名な「閔妃虐殺事件」がおきる。日本の支配に抵抗する朝鮮国王の妃、閔妃を切り殺し、ガソリンで焼却してしまう▼戦前の日本軍部の独走を許した背景には、日本の民主主義の脆弱性があった。それでも、明治維新以後の日本の民主主義は多くの成果も残している。農民一揆、自由民権運動などだ。この中には、植木枝盛による「日本国憲法案」などの民間憲法草案もある。戦前の運動の教訓を生かし、民主主義を確固としたものにしたい。それがチャングムたちの願いに応え、平和な世界にしていく、ただひとつの道だ。(太)